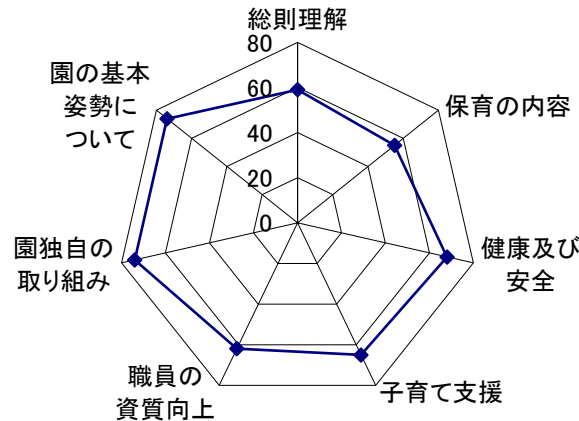


令和6年度自園評価結果

【項目別取り組みの達成度(%)】

	総則理解	保育の内容	健康及び安全	子育て支援	職員の資質向上	園独自の取り組み	園の基本姿勢について
R5 年度	55	53	69	61	64	72	65
R6 年度	59	55	68	65	62	74	74



【評価・分析 ～自園の強み、弱みの把握とその要因～】

前年度は、ニュース等で報道された事故の影響もあり、職員の意識が向上し、すべての項目において達成度が上昇した。今年度は、一部の項目で達成度が向上したものの、その他の項目では昨年度の水準をほぼ維持する結果となった。

達成度が上昇した項目「園の基本姿勢について」

昨年度に発生した事案を解決していく中で、園としての保育のあり方を職員一人ひとりが改めて考え、意識したことにより、保育理念の再認識や職員としての心構えの再確認が促されたと考えられる。

高い達成度を維持しつつ、多少の上昇が見られた項目「園独自の取り組み」「子育て支援」

「園独自の取り組み」では、畑活動やクッキング、咀嚼など食育に関する活動が継続して行われている。特に咀嚼への取り組みは、毎日の昼食やおやつ時の食べ方、「かみかみ通信簿」や参観会を通じた保護者への意識づけにより、子どもたちの健やかな成長を支える土台として高く評価されていると思われる。「子育て支援」では、コロナ禍の収束に伴い、登降園時の保護者とのコミュニケーションが増え、子どもの様子を伝え合いながら情報交換が活発になったことで、保護者の子育てに寄り添う機会が増えた。この変化により、職員の実感が達成度向上につながったと考えられる。

達成度は高いものの、やや下降が見られた項目「健康及び安全」「職員の資質向上」

「健康及び安全」では、安全計画を策定し、実施すべき事項は明確になったものの、それを日々の保育の中でどのように実践するかについては手探りの段階であり、今後さらなる改善が求められる。「職員の資質向上」では、安心・安全を重視し、丁寧な子どもとの関わりを心がける職員が多く見られるが、不適切保育の研修を継続することで、自らの保育に対する意識が高まり、より厳しい目を自身に向けるようになったことが、達成度の変化に影響していると考えられる。

やや上昇しているものの達成度が低く、今後の改善が求められる項目「総則理解」「保育の内容」

いずれも職員が日々考え、悩みながら取り組んでいる部分である。「総則理解」では、理解を深めなければならないという思いはありながら、日々の保育や業務に追われ、読み合わせの時間を十分に確保できていない状況が課題として挙げられた。「保育の内容」においては、指導計画の振り返りの場を設け、ねらい・保育内容・子どもとの関わり方を共通理解しながら保育を進めている。しかし、子どもたちの反応の違いや、支援を必要とする子どもへの対応に苦慮し、どのように計画を立て、対応していくことが望ましいのか悩む場面が多いことが、達成度の低さにつながっていると考えられる。

【改善策】上記の弱点を改善するために必要な具体策や取り入れてみたいアイデア

- ・保育指針を職員間で読み合う時間を作ったり、全職員が参加できる研修のありかたを工夫してみる。
- ・安全計画を月案、週案のなかに反映し、実践的な取り組みを計画していく。